地区広報

はづ

No. 5
羽津地区市民センター
羽津地区社会福祉協議会
昭和56年 9 月25日

おもしろうて やがてかなしき……
来年また盆踊りでおあいしましょう！

毎年、盛大にくりひろげられる羽津の盆踊り大会。ことしも、8月14日と15日の2日間、羽津小学校の校庭で行なわれ、たくさんの老若男女が参加して、夜おそくまでにぎわいました。

初日は、朝から雨がふったりやんだりのぐずついた空模様でしたが、踊りがはじまる頃には回復。2日目も、まずまずの天気で、参加した人たちをよろこばせました。

この盆踊り、これまでは、準備から後かたずけまで、ほとんどを青年団が請負っていましたが、ことしからは、地区社協に加盟する他の団体も積極的に協力しあうことになり、まさに地区をあげての行事となりました。

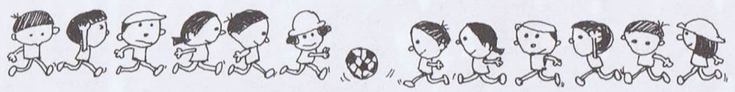
ただ、運営の都合上、日程を2日間に短縮しましたが、これについてはいかがでしたでしょうか。

年に一度の盆踊りを、いっそう楽しく思い出ぶかいものにするためにはどうしたらよいのか、みなさんのアイデアにあふれるご意見を、お寄せくださいますようお待ちしております。（ふ）

上の写真は、羽津山町の岩脇崇雄さんからの提供です

羽津山町をモデル地区にして スタートした『伝承あそびの日』の運動

遊びを通して すこやかな子供たちを!!



青少年の健全育成が、学校、家庭、社会にとっての緊急課題となっている時、当地区では、「遊び」を通して心身ともにすこやかな子供たちを育てようと、本年度、「伝承あそびの日」の運動を提唱。

これをうけて、羽津山町がモデル地区として、去る六月二十八日に第一回目を実施。当日、会場となった城山公園には、約三百名の子供たちがあつまりきゅうてん、石けり、いんしゃん、大なわとびなどといった昔から継承されてきた遊びに、目をかがやかせて挑戦し、元気よく駆けまわっていました。

まずは大成功

毎月第三日曜日を「伝承あそびの日」に

この運動は、毎月第三日曜日の「家庭の日」を「伝承あそびの日」として、この日には、大人と子供たちが一緒になって、昔から地域につたわる遊びを楽しみ、そのことによって、両者の交流を深めつつ、心身のバランスのとれた子供たちの成長をうながし、また地域における異年令の子供集団をも回復させるなどといった、多面にわたるねらいをもって企画されたものであります。

これを実施するにあたって、モデル地区となった羽津山町では、自治会、子供会育成会、婦人会、老人会、体育振興会、中小PTAといった各種の団体が一体となって実行委員会を結成。当日の役割分担や、どんな伝承あそびをどのように教えていくかなど、再三にわたる会合をひらいて、綿密な打ちあわせを行ないました。

つまり、この運動は、単に子供たちの健全育成をめざすだけではなく、これを推進していく過程で、地域における団体および個々の大人たちの連携を相互に深めることによって、これからの地域社会づくりにも大きな成果をもたらすことが期待されるわけです。

羽津山町の実行委員会に集まったメンバーは、全員でこの運動のもつ意味を充分に確認した上で、当日の実施にふみきりました。

写真は、「かかし」の石けりに挑戦する子供たち
—六月二十八日、城山公園で

迂遠なようでも非行防止への近道

このように、かけ声ばかりの運動とか組織づくりとかではなく、町をあげて直接的な実践にのりだしたケースは、あまり例のない「伝承あそび」をとりあげたこともあってニュースバリューがあったのか、当日は、新聞やテレビのマスコミ関係もつめかけ、また青年団をはじめ他の団体や町の見学者も多数あつまり、会場は、熱っぽい空気にふくれあがりました。

そうした雰囲気にもかかわらず、実行委員会の人たちの適切な指導で、たちまち遊びに熱中していく子供たちをみていると、この運動は、遠回りのようでもこれが定着し、自主的に遊びを創造する子供集団が形成された時、おそらく非行をうみだす土壌の多くは、解消されているだろうと確信しました。

各町へのひろがりを期待!

「のびのびと遊ぶ子たちに非行なし」の合言葉の下、羽津山町では、当初の目的を達成するまで、息長くこの運動を続けていく予定です。

子供たちの健全育成とか非行防止とかいう場合、とかく子供たちをより厳しく管理するといった発想におちいりがちですが、子供たちの自由な遊びを通してそれを克服していこうというこの運動に対する皆さんのご理解とご協力をおねがいします。

そして、この運動が、羽津山町にとどまらず、羽津地区ぜんたいへとおおきく広がっていくことを期待してやみません。

子供たちも大よろこび!!

この運動の主役は、何といっても子供たちです。そこで当日、参加した子供たちに、実際に伝承あそびをやってみた後での感想をきいてみました。

こんどは、もっといっぱいやるよ。つなひきがしたいナァ。
幼稚園　藤井照久

インシャンは、初めてだけどとってもおもしろかった。お手玉や川で魚もとりたいな。
小一　永尾　勝

カンケリがおもしろかった。こんどは、おりがみがしたい。
小一　長崎晃子

キュウテンがおもしろかった。カンケリがしたい。自分で竹トンボをつくってみたいナァ。
小二　小井健也

石けりが、とても楽しかった。家へ帰って、またやりました。
小二　鬼頭ゆう子

今度は、インシャンをやりたい。
小二　鬼頭ゆう子

なわとびがおもしろかった。次の時には、キュウテンで相手をいっぱいやっつけてやる。
小三　安藤嘉規

大なわとびが、とてもおもしろかった。もっといっぱいやりたい。お手玉もしたいナァ。
小三　館華奈子

キュウテンがおもしろい。竹馬を作って乗りたい。ドッチボールの天下もしたい。
小四　藤井敬子

何でもいいから、もっとやりたい。お手玉を作ってみたいわ。
小五　広瀬晃子

インシャンをはじめてやりました。あとで友だちともやりました。サブリーダーになりたい。JLにもなりたいと思う。
小六　森　一郎

ずっと続けてほしい。サブリーダーになって、自分も小さい子に教えていきたい。
小六　吉田文代

遊ぶことの意義

羽津山町　山下　幸翁

今日の社会において、青少年の非行化が大きな問題となり、しかも、それが低年令化しつつある現状を考える時、それは、とりもなおさず、子供たちをとりまく生活環境にいろいろな問題点があると思われます。

遊ばなくなった子供たち

まず第一に、子供たちが遊ばなくなったということです。私たちが地域内のパトロールに出て体験したことですが、戸外で遊ぶ子供たちの姿は、全くといってよい程、見当らないのです。その一方で、ゲームセンターをのぞくと、どこでも数人の小・中学生がいるのです。

外では、太陽がさんさんと輝いているのに、どうして薄暗く狭い場所を好むのか、理解に苦しみます。

家庭が核家族化して、兄弟も少なくなり、地域の子供集団も崩壊して昔から子供たちが楽しんできた遊びが伝承されなくなったこと。親が勉強を強要するあまり、外に出ることを禁じ、その代りにテレビや高価な玩具を与え、また、すぐに危険だからといっては次々と遊びを封じた結果が、こんな子供たちを生みだしたともいえます。

子供の遊びをリードし、演出するガキ大将がいなくなったことも、原因のひとつといってよいでしょう。

昔は、必ず地域にはガキ大将がいて、うまく子供組織をまとめ、子供一人一人に役割をふりあて、集団に必要なルールを示し、手づくりの遊びを創造し、演出したものです。ガキ大将は、子供集団では権威があり家庭ではできない耐えること、協調することを、遊びを通して教えたものです。

ガキ大将は、必ずしも、家庭や学校で高い評価を受けるような、いわゆる「いい子」ではなかったのですが、この家庭や学校での評価と地域での位置づけの異なりが、ほどよく調和し、それぞれの子供たちに生活の喜びを持たせてもいました。今日の「いい子」集団を望む社会では、こうしたリーダーは生まれにくいのではないかと思います。

以上のような点をふまえる時、今の子供たちに最も必要なことは、親と大人が、現状に目覚め、環境づくりをして、子供たちの自主的な遊びを保証するということではないでしょうか。子供たちは、遊びを通して集団における倫理と秩序を身につけ人間として必要なさまざまなことを学び、健全なる人格を形成していくものだと思います。

地域社会とのかかわり

地域社会は、子供たちにとって重要な自己形成の場であります。これからの地域社会にとって必要なことは、「心豊かで創造性に富んだ子供づくり」を前提として、良質の文化を培うとともに、楽しく夢のある、そして子供たちと大人たちが心をひとつにできるような地域活動を展開していくことであると考えます。

保育園でも「伝承あそび」にアタック!!
——お年寄りとの交流も深める

7月24日、羽津保育園においても、みのり保育園と合同で伝承あそびをみなおすための試みがなされました。

当日は、羽津地区民俗同好会のお年寄りたちを保育園にまねいて「中の中の小仏」「子をとろ子とろ」など古くから伝わる遊びを教えてもらいました。最初は、少しとまどい気味だった子供たちも、おじいさんおばあさんの汗だくの指導で、いつしかすっかり夢中になり、大はしゃぎをしていました。

保育園では、子供たちとお年寄りとの交流を深めるためにも、こうした機会を定期化していきたいとのことでした。

〔写真は、お年寄りと「中の中の小仏」を楽しむ園児たち〕

提言 中学生問題を考える！

中学生をめぐってのさまざまな問題がクローズアップされている時、地域社会としても、その健全育成に真剣にとりくむ必要があります。

そこで、このページでは、現実に中学生と接している先生や父兄の方から意見をのべていただきました。

おこないの是非を決めるもの

羽津中学校
校長　森　茂男

少年期にあるこども達が、人生における掛け替えのないこの年代を、思う存分に生きていくことは、私どもの等しく願うところであります。それは、年令の如何にかかわらず、その期、その期を精一杯生きることが、人間として悔いのない、望ましい人生の姿であると共に、その姿こそが輝かしい将来に通じることを信じるからであります。

こどもらの一つ一つの行為には、持っている知識や理解・応用力等の知的能力を全力投入している姿が伺えます。また、手先の器用さや運動面の技能をその中で駆使しています。

ところが、その行為は、知的能力や技能だけで成立しているわけではありません。そこに脈脈と注がれている意欲を伺い知ることができます。

こどもらの行為は、このように行為に対する意欲、すなわち情意的能力によって手掛けられ、押し進められているといっても過言ではありません。そして、それがその行為の中に一貫して流れ、持続される中で、知的能力や技能が合わせ発揮されてその行為となっていることがわかります。

こどもらの健全育成を図る上からは、こうしたこどもらの行為が、本人にとって、社会にとって望ましいものであるかどうかが問われることになります。

そこで、行為の優劣を問う立場に立った場合は、こどもの知的能力や技能が注目されます。が、その行為の是非の立場からは、情意面、すなわちその子の興味や関心・態度・価値感・正しい判断力や社会への適応性等が問題になります。こどもの行為の是非は、この情意面の働きによって決せられるからであります。

従って、青少年の健全育成活動もおのずからこの情意面の育成に向けられることとなります。

ところが近年、中学生に対する家庭や社会の期待は、高校進学を前提とする知的能力や技能面にかけられ、情意面が軽視されている現実であります。その結果こども達は入試準備に追われ、点数主義におちいると共に普通科志向に走ることとなっています。

こども達の将来は、すべて職業を持って社会人としての人生を歩むことになります。その人生を左右するものは、知識や技能ではなく、情意的能力であることは申す迄もありません。今こそその重要性を再認識し、あらためてこどもへの対処を求めるべきときであると思います。

情意的能力に関しては、とくに、人生の意義や目的・自分の将来と希望（職業）・人間としての生き方等の人生観についてまた、職業の社会的意義や正しい労働観等の職業観について、さらに、自分の能力・適性と進学・就職等の自己理解についてを内容とする指導や助言が強く望まれます。

そうした家庭や社会環境にこそ、こども達に、将来を展望しながら一日一日を意欲的に生きる情意的能力が育つものと考えます。

「ひとりで渡れ 横断歩道」

羽津中学校
生活指導担当　辻　本　幸　彦

「横断歩道みんなで渡ればこわくない」最近、面白いことばがたくさん出ています。当然こわいはずの横断歩道も、みんなでがやがやと渡れば、車の方でさけてくれる。まったくとんでもない発想だと思います。しかし、こんな発想は生徒の中にもあります。

近ごろ、校内暴力とか家庭内暴力とかがよく話題になります。「A中学校が乱れている」とか「B中学校は爆発寸前だ」などと情報通の口から出ることがあります。聞く人はいかにも満足げにそれに追従して、感想や意見をのべます。他所の火事は大きい程面白いものです。そして新聞をかこんで、学校が悪い、いや家庭が、社会がと勝手に想像して結論を出しています。しかし、その原因を追求することは不可能です。直接引き金になる原因もあり、そこへ来るべき誘因もあり、そしてそんな土壌があったりで、誰が悪いとはっきりさせて安堵したいが、そうもいかないと思います。あれやこれやが重なり合い、複合して起るものだと思います。「そんならなにも……」では、それこそ「みんなで渡れば」になってしまいます。今なにができるか、できるものからやって見ることだと思います。そして、ひとりで横断歩道が渡れるようになればと思います。これが学校の、家庭の、地域のつとめだと思います。

今の生徒に一番欠けているものは「なにが本物で、なにが偽物か」を判断する力ではないでしょうか。ことばを替えると「どう生きるか」ということではないでしょうか。みんながやることがよくて、集団からはみだすものは全部悪だと決めた方が楽です。しかし、これを本当に子供たちに獲得させるのは大変なことです。それには、おとなの真剣な「生きざま」を見せるしかないと思います。子供は親の背中を見て大きくなるといいます。親が真剣に生活に立ち向っていく姿を見て感動しない子供はいません。親が世の不正に対し雄々しく立ち向っていく姿を見ている子供に校内暴力ができるでしょうか。この親の姿をそのまま学校の先生におきかえたらどうでしょうか。また隣のおじさん、おばさんにおきかえたらどうでしょうか。まわりのおとな達が、自分のおかれた立場や、仕事で真剣に生きることが、まず大切なのではないでしょうか。私達おとなも、きょうからひとりで横断歩道を渡ろうではありませんか。

でも、これは私達おとなのためにするのです。子供達のために等と恩きせがましいのは逆効果です。

地域をあげての健全育成を!!

羽津中学校PTA
会長　森　源　八

昨今、青少年の非社会的行動が大きな社会問題となっており、特に中学生をもつ私たち親にとって安閑としていることはできません。いわく、家庭内暴力、校内暴力、万引等々、どこの学校でも、或いはどこの家庭でもこれらの問題について悩んでいることであると思います。

このような悩みをもった父母と教師がつくっているのが、現在のPTAであり、子供の健全育成に積極的に努力しているのがPTAであるはずです。

子供を健全にそだてるには、まず父母が立派な生きざまを示し、また地域社会じたいが、明るく健全なものとなる必要があります。そのためには、非教育的なものと教育的なものを取捨選択する能力と権威を、ある程度とりもどす必要があります。PTAは、このための絶好の組織であります。

原点にもどって

PTA本来の目的を実現するためには、会員の諸活動への参加率をあげることも必要ですが、今ここで、原点にもどって、親の役割とは何か、教師の役割とは何かについて真剣に考え、そこから再出発することが急務であると考えます。

羽津中学校PTAでは、今年度、特に地区懇談会をはじめ、学年懇談会、地区パトロールによる校外指導、家庭教育講座、および広報活動等の諸々の行事を通して、お互いの教養とPTAに対する意識を高め、会員相互の連携を密にすることによって、子供たちの健全育成をはかろうと努力しております。真に子供たちの幸福を考える立場から、お互いの役割を確認しあって、形式にこだわることなく、また活動の華やかさを追うことなく、お互いの信頼を第一にした活動を行なっております。

最後に、青少年の健全育成には、家庭や学校だけでなく、地域全体が、これに真剣にとりくみ、相互の情報交換を密にしていくことが大切であると思います。

年代的にも、いちばん難しい中学生をもつ親としては、子供の健やかな成長のために、地域活動やスポーツクラブへの参加を促し、その活動の場を広げさせるとともに、明るい社会を築き、明るい学校生活ができるよう、あたたかい手をさしのべてやることが大事なつとめであると思います。

親自身、大人自身が襟を正すべき

羽津中学校PTA
母親部長　山　田　克　子

ここ数年、中学生による校内暴力等の事件が多発しており、PTAの種々の集いにおいても、たびたび、それに関しての話題が取りざたされてきています。

私どもの中学生時代には、皆無といっていいほどだった校内暴力がここにきて急増しているのは、一体、何が原因なのでしょうか。

子供を教育するには、家庭、学校、社会の三つの輪が均等に調和していることが重要だと思います。そのいずれかが、何かの要因で何らかの歪みを生じた場合、子供を輪の外に放りだしてしまうことになります。

子供を全て点数によってふりわけ、受験地獄に追いやっている学校教育にも一因があるでしょう。また、情報社会の渦の中たえず子供がキャッチする種々の悪質な事件の影響、低俗化する社会風潮も大きな原因だと考えられます。

家庭教育の見直しを！

私ども、子をもつ親としても家庭での教育について、今一度考えなおす必要があると思います。我々が育った時代と比較して、現在の家庭教育には、何か忘れられた一面があるのではないでしょうか。目上の人を尊敬する心、昔の厳格な父親の姿はどこへ行ったのでしょうか？父を頂点とし、固い絆で結ばれていた家族も、今や失なわれつつあります。

高度の経済成長に伴ない、物質的には恵まれすぎ、耐える心を失なわせた社会や親の責任も問われましょう。

子供の心身ともに健やかな成長を願わない親はないと思います。種々の問題が生じてから腰をあげるPTAであってはならないと思います。一部の会員によるPTA活動ではなく、すべての教師、すべての父母が一丸となって、子供の健全な育成をはかることに協力しあい、この羽津地区より一つもの汚点をも出さぬよう、今一度、大人たち自身が襟を正し、子供たちの教育に取組まなければならないと思います。

サブリーダー会が発足！

地域活動への中学生の参加をうながすために

羽津地区青少年育成協議会
指導部長　伊藤淳一

青少年の健全育成の面で中学生問題が大きくクローズアップされている現状の中で、当地区における子供会育成活動の中でも中学生問題はやはり大きな課題の一つになっている。最近はニュース性がなくなり、表面に大きく出なくなったが最重要課題である校内暴力問題などとは直接のかかわりあいは持たないにしても、そこに至る過程の中で地域社会での育成活動が果すべき役割は大いにあると思う。

羽津地区青少年育成協議会（青少協）では昨年度より、この課題に取り組み、まず昨秋、羽津中の全生徒を対象に子供会育成活動に関するアンケート調査を実施、生徒たちの育成活動に対する意識を知るとともに、一つの提案をした。それがサブリーダー制である。

育成活動の中で子供たちのよい兄、姉として活躍してくれているジュニアリーダーの補佐としていままでの受け身の立場から指導者の立場になり、小学生をリードしていくとともに、中学生自身の問題についても育成活動の中のよき協力者であり企画者になってくれる中学生をサブリーダーと称し、組織化することであった。

その結果、予想以上に多くの中学生よりサブリーダーへの参加の意志表示と関心が寄せられ、早速、昨年12月に説明会を開催、新年度となった本年5月、各町育成会の役員の方々のご協力を得て、入会の呼びかけを行い、去る6月14日市民センターに於いて70名を越す参加を得て羽津地区サブリーダー会として発足するに至った。

当面は単位子供会の育成活動の中での活動に重点をおき、そのための研修を青少協本部にて行うシステムにて運営をする予定であるが、すでに、単位育成会ではサブリーダーを活用しているところもあり、今後、クリスマス会、お別れ会などの単位育成会の行事に向け研修会を開催の予定である。

中学生問題に対する数ある施策の中の一つとして、各方面の協力を得て、実のあるものとしたい。

〔写真は、「伝承あそびの日」に活躍する羽津山町のサブリーダー〕

『はづ』のおしらせ版

小・中合同の懇談会を開催

羽津山町　他の団体も参加して子供たちの問題を話し合う

さる八月六日、羽津山町では小・中PTAが一体となって、子供たちの健全育成について話し合う地区懇談会が開催されました。

この懇談会には、自治会をはじめ、町内の各種団体も積極的に参加し、文字どおり町をあげての話し合いとなりました。

こうした形での懇談会は、初めての試みでありましたが、約九十名の人たちが参加。学校からは、小・中ともに校長先生、教頭先生と生活指導の先生、それに両校のPTA会長をふくめ十名のかたがたに出席をいただき、また四日市北警察署より担当官二名の特別参加を得て「非行化防止」のテーマについてそれぞれの立場からの意見交換が行なわれました。

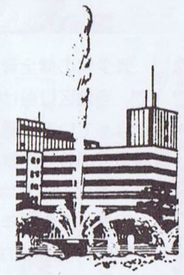
最初の約三十分は、「親の知らないところで」という、ごく普通の家庭でおこる小学生の万引きを素材にした映画を上映しました。参加者の多くは、お母さん方でしたが、この映画を観て、「わが子にかぎって」という今までの考えが、少し甘く感じられたのではないでしょうか。

映画のあとの懇談では、両校の校長先生から、学校における子供たちのいくつかの問題点を、警察の方からは、非行の現状をそれぞれに話していただきましたが、現実は、かなり深刻化した状況にあるように思われました。

この状況をふまえて、今後は家庭においても、また地域社会においても、子供たちの意識や行動に一層配意し、家庭、学校、地域の三者が密接な連絡をとり情報と意見を交換しながら、非行化防止にとりくんでいかなければならないと考えます。

今回の懇談会をふりかえって思うことは、もう少し多くの方々に参加していただきたかったことと、もっと活発で建設的な話し合いが欲しかったことです。これは、全般的な傾向ですが、子供にかかわりがあることでも、地域活動となると出たがらない、あるいは無関心な親が多いということでしょうか。非常に残念なことで、親がもっと積極的に地域活動に参加することで、子供たちへの良い影響も期待できると思います。

最後に、学校側に対しては、家庭での、あるいは地域での問題について、もう一歩つっこんだ御意見と御指導を望みたいと思います。（や）



来春の開校めざして
急ピッチの工事すすむ

羽津北小学校

年々の人員増でマンモス校化している現在の羽津小学校を、二校に分離するために計画された羽津北小学校の新築工事が、来春の開校をめざして急ピッチですすめられています。

九月の初めの時点で、すでにブロックとフェンスの外周工事は完了し、運動場の地ならしも終って、いよいよ本格的な校舎の建設工事にとりかかっております。

場所は、大字羽津字御田（米洗川の北側で、羽津の北部に位置する所）で、まわりは住宅もない静かな田園地帯です。

これが完成すると、現在の羽津小学校の生徒の内、霞ヶ浦南北、白須賀、八田全町、羽津第三、羽津中二、三丁目、別名三、四、五、六丁目、鵤の児童が通学する予定になっています。

生徒数は、現在の羽津小学校の約三分の一強ですが学校の敷地面積は六千六百坪余りと、現在の羽津小学校より広く、将来の人員増を見込んで、余裕をもたせた計画となっております。

開校までには、校歌、校章や通学路なども確定し、心もすがすがしく児童をむかえることでしょう。

ご報告とお礼

羽津地区スポーツ少年団育成会
会長　村瀬重行

このたび、スポーツ少年団の体育倉庫が完成いたしましたが、その建設資金には、昭和53年に皆様よりご厚志をいただきました残額を充当させていただきました。

ここに、建設費用の支払い明細を次のとおりご報告申し上げますとともに、ご厚志をいただきました皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

建設工事費（電気工事費は除く）		809,200円
支払明細	定期預金（残額金）	755,799円
	利　息	31,282円
	青少協より特別助成金	22,119円
	合　計	809,200円

尚、電気工事費については、地区連合自治会より48,000円の特別助成をいただきました。

ガンバっています！

“国際障害者年にちなんで”
小学生も参加し、熱のこもる手話教室

民生委員・保護司会
会長　奥村光子

「国際障害者年」にあたって地区の皆様方に障害者福祉への理解を深めていただこうと、センターと共催で、今回の手話教室を企画しました。全二十回の講習の内、すでに半分以上がすみましたが、この頃は、小学生も参加して、ただ今、二十数名の会員で熱心に学習しています。

先日は、聴覚障害の方が教室に来てくださいましたが、まだまだ未熟な私たちの手話を真剣に読みとろうとし、また、ご自分の気持を伝えようと体ぜんたいで話しかけてこられる姿には深く胸をうたれました。

この教室は、十月二十八日で終りますが、その後もサークルとして活動を続け、仲間を広げていく予定です。

「片言でもいい、障害者の方と心が通じるようになりたい」と各々に頑張っております。皆様も、是非ご参加ください。

心のゆとりをもとめて
なごやかな煎茶サークル！

サークルに入った当初は、いくぶんぎこちなさがありましたが、先生の指導で、ようやく落着いてお手前ができるようになりました。姿勢を正して、おいしいお茶をいただき、楽しくおしゃべりしていると、もやもやした気分も消えてしまいます。

あなたも、心にゆとりのある時間を持ってみませんか？

「教養は、一生減らないあなたの財産である」（ひ）

俳句
——志氏ヶ野句会より
〈村田青麥選〉

夏期講座大和三山見え渡り　羽津町　藤井築城
絣の背曲げて補植の飛騨女　羽津岡下　中崎鈔子
風止みて夕顔の花咲くを待つ　大宮町　武藤弘子
一つ摘む茗荷の花の黄の淡し　白須賀二丁目　舘二三子
夏草の藁家の谷の一店舗　大宮町　山本幸
崖に湧く清水に濡れて登山道　白須賀二丁目　加藤よ志ゑ
羽津町　藤井まきへ
蓮の寺仏具磨きに主婦集ふ　羽津町　藤井まき女
夏帯を出せば徽おりふと淋し　羽津町　大森みつゑ
石橋の辺の草を刈る祭かな　城山町　川合光津子
捕虫網とどかぬ蟬の静かなる　鵤町　安田源吉
葱植うる土の匂ひに秋の来し　城山町　宮田健三
旅先の窓より見えし遠花火　別名二丁目　伊藤朝子
蜩を真上に池の遺跡訪ふ　金場町　森房子
青空に似し水色の日傘ゆく

シリーズ 郷土の歴史 第4回

岡山合戦のこと

羽津地区郷土史研究会
会長　森元三

垂坂山合戦と他所人は云う、かの赤堀氏が羽津の地に築城する二十数年前に、こんな合戦があった。

「北畠系譜——伊勢巻」より羽津村誌が要約したものから更に孫びきすれば、文中元年（一三七二年）春三月、仁木義長の一族が再び勢州へ返り入り、朝明郡水無瀬山に城を構え、国司側であるべきはずの富田城の一族南部左京亮をかたらって、大矢知城に籠った。

これに対し、茂福域主の朝倉下総守と下野山城の見永七郎等は、手勢を率いて押しよせたが大勢に叶わず、一族郎党の多くが討たれて敗退し、茂福城に籠城した。仁木・南部勢は、一手になって城を取り囲んで攻めたてた。

このことが、一志の府城多褒に早打ちされた。急を聞いた国司は驚き、ただちに大宮入道父子を大将として二千余騎をさしむけた。その軍勢は、岡山に着陣。敵を眼下に見おろし、坂の半ば小松原の蔭より射手を出して射させた。

仁木の軍勢は、麓より押し上げ押し上げ攻めのぼったが、はげしく射たてられ、ひるむところを、大宮父子、兵を魚鱗に備え、大山の崩るるごとく真逆様に駈け落せば、こらえようもなく、岡山の西、大谷へ人馬馳せ重なり、大太刀に貫かれ死するもの五百余人。たまたま落ちのびた者も、茂福の城より打ってでて退いた兵には、柿の城からの沼木三河守の勢や下野山城の見永勢が打って出て、横合いより攻めたてたので、仁木伊賀守、同左馬助、外山播磨守、今峯孫三郎、南部左京亮、同太郎をはじめ、宗徒の者ども痛手を負ひてかなわじと皆討死して失にけりと。村誌には、附記して「その処を往生谷と云う。垂坂山観音寺の南方なり」とある。

その戦いの後

この合戦が、どのように収拾され、勝利の軍勢が何処に駐留したのか、撤退したものか、史書は伝えていないが、戦場の近辺には、かなりの爪跡が残ったことであろう。現在の学校の地字「大宮」は、大宮入道父子の名残りかもしれない。

この合戦から二十年の後、京都では、五十六年間も対立し続けた南北朝廷が合一された。

その年から二年後の応永元年（一三九四年）赤堀氏が上野国より来り、北伊勢四十八氏の中に加わって、また新たな対立抗争が始まるのであった。

各町めぐり ③ 金場町

自治会長
小川孝さんに訊く

――金場町の概要は？

小川　当町は、羽津地区の中でも、最も古い存在といってよく旧東海道に沿って、かっては約七十戸が集落をつくって、至極平穏にくらしていたのですが、昭和四十二年頃の住居表示改正と町名変更に伴ない、不幸なことに、旧東海道をさかいにして、町内が西と東の二つに分断されてしまいました。

そのため、道路の東側の三十五戸だけが金場町として残り、西側は城山町となったのです。

住居表示改正で二分された町

――それで今のような小さな町になってしまったのですね。

小川　そのとおりです。しかし、町の呼び方は変っても、それまでの長い歴史のおつきあいもあり、実質的には、そう簡単には別れられず、しばらくは従来どおりの町運営をしておりました。特に困難したのは、学童の問題でした。子供会の呼び名もかわりますし、細かく説明すればきりがありませんが、いちばん迷惑をうけたのは、子供たちであったかもしれません。

こうした中途半端で複雑な町運営では、とても駄目だと考えまして、昭和四十八年より、行政の命令どおり、はっきりと分離しまして現在にいたっております。

この際、行政にひとこと申し上げたいことは、何事でも一方的に自らの意向を押しつけずに住民たちと充分に話しあった上で、企画なり処理なりをしてくださるようお願いしたいということです。

――現在の金場町で特筆できることは？

小川　それは、唯一、昔から地蔵さんをお祭りしていることです。毎年、八月二十四日の命日には、町内の組単位でお世話して盛大に行ないます。特に子供に縁のある地蔵さんですので、子供たちもたくさん集まって、早朝より鉦や大鼓の音がひびきわたります。

この地蔵盆だけは、城山町へ編入された旧金場町の方たちも一年交代でお世話いただくことになっております。

権利と義務のバランス感覚を！

――最後に、何か一言…

小川　これからの社会にとって大切なことは、我田引水の考えを排し、権利を主張するならそれと同時に義務を守るという原則を、それぞれがしっかりと身につけることです。それができないかぎり、明るい将来は期待できないと、私は思います。

▲子供たちも楽しげな地蔵盆

"本番"に備えての訓練を展開！ 防災の日

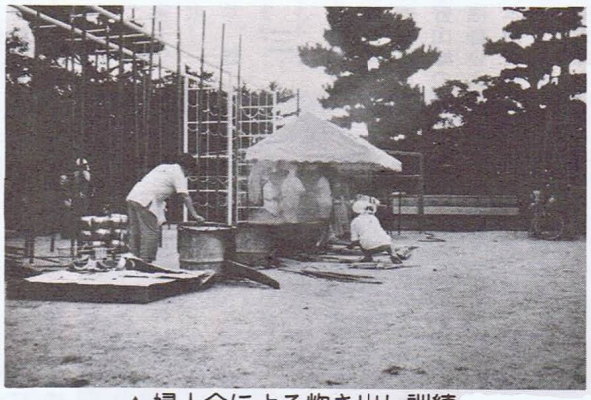
9月1日の「防災の日」、東海地震を想定しての総合防災訓練が、関東、中部の10都県でおこなわれました。

わが羽津地区でも、当日は、羽津小学校の校庭において、小学生をふくめた地区の関係者ら1670名が参加しての防災訓練を実施しました。

訓練の内容は、自治会長さんたちによる情報伝達訓練、消防団、自警団、自主防災隊による救護訓練と初期消火訓練、小学校児童とPTA、安協による避難および集団下校の訓練、それと婦人会のみなさんによる炊き出し訓練といったものでしたが、参加された方たちは、実際の時に即応できるようにと、それぞれに真剣な訓練ぶりでした。

災害は、いつ襲ってくるか予測しにくいものだけに恐しいものです。しかし、私たちのふだんからの心がまえとその場での冷静な行動が、災害を防ぎ、あるいは被害を最少限にくいとめることにつながります。

防災に対する、みなさんのより一層のご理解とご協力をおねがいするしだいです。



▲婦人会による炊き出し訓練

忘れたころにお邪魔しますから今のうちに……

あとがき

初秋の候、皆様、いかがおすごしでしょうか？

今回もまた、子供たちの健全育成にウェイトをおいた編集となりました。

心身ともにすこやかな子供たちを、いかに守りそだてていくか。それについての真剣な論議と実践の輪が、おおきくひろがることを願ってやみません。

▼編集メンバー
◇武藤弘子（社教推進委員）
◇森　照代（中・PTA）
◇鬼頭洋二（小・PTA）
◇藤井智美（青年団）
◇羽津地区市民センター

羽津の人口

（昭和56年7月末現在）

		前回比
男	6,545人	−39
女	6,494人	−11
合計	13,039人	−50
世帯数	3,797世帯	+35